

令和6年度 男女間における暴力に関する調査結果の概要について

1 調査概要

- (1) 調査対象 県内全域の 18 歳から 69 歳までの 2,000 人(男女各 1,000 人)
- (2) 調査期間 令和6年8月2日～23 日
- (3) 調査方法 郵送返送方式
- (4) 回収状況 回収数 740 人(うち有効回答数 738 人)／回収率 37.0%(うち有効回収率 36.9%)

2 調査結果の概要

(1) 夫婦間等における暴力(DV)行為に対する意識

- ・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が多いのは、「身体を傷つける可能性のある物でなぐったり、投げつけたりする」(96.1%)、「刃物などを突き付けて、おどす」(95.8%)、「相手や家族を傷つけるなどと告げておどす」(91.3%)、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」(91.1%)、「足でける」(90.9%)で、いずれも9割を超えている。
- ・前回調査(R1)と比較して、精神的な暴力行為に対する認識への高まりがみられる。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合

- ・何を言っても長期間無視し続ける R1 41.0% → R6 72.8%
- ・交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する R1 48.7% → R6 66.3%

(2) DV 防止法の認知状況

- ・「法律があることも、その内容も知っている」が 18.4%、「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」が 72.5%となり、合わせて 90.9%が DV 防止法について認識している。(前回調査(R1)に比べ 0.8 ポイント増加)

(3) 相談できる窓口の認知度(複数回答)

- ・「富山県女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)」(52.3%)が最も多くの人に認知されている。(警察相談ダイヤル＜警察＞(49.2%)、市町村の DV 相談窓口(40.8%))

(4) 配偶者・パートナーへの加害経験

- ・配偶者・パートナーへの何らかの加害経験のある人は 20.2%(男性 22.9%、女性 18.6%)となっている。(前回調査(R1)に比べ 2.8 ポイント減少)

(5) 配偶者・パートナーからの被害経験

- ・配偶者・パートナーから何らかの被害経験のある人は 25.4%(男性 19.5%、女性 29.2%)となっている。(前回調査(R1)に比べ 0.2 ポイント減少)

(6) 暴力被害の相談先(複数回答)

・暴力行為を受けた際の相談先について「家族や親戚に相談した」が24.3%、「友人・知人に相談した」が23.7%となっているが、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が55.9%と最も高くなっている。



・相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が、50.6%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(24.7%)、「相談してもむだだと思ったから」(22.4%)で、いずれも2割を超えている。

・行政機関の相談窓口相談しやすくするために必要なこととしては、「被害者が相談する場所等について、安全やプライバシーが確保されるように配慮する」が58.6%と最も高く、次いで「SNSやメールで、相談を受けられるようにする」(40.1%)、「相談窓口や支援の内容について、積極的に広報を行う」(38.2%)と続いた。

(7) 別れなかった理由(複数回答)

- ・「別れるほどの問題ではないと思ったから」が、48.9%と最も高く、次いで「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」(36.6%)となっている。

(8) 交際相手からの暴力(デートDV)の認知状況

- ・「言葉もその内容も知っている」が 36.6%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が 36.2%となり、合わせて 72.8%がデートDVという言葉を認識している。

(9) 交際相手からの被害経験

- ・交際相手からの被害経験があると回答した割合は 14.2%と、前回調査(R1)に比べ 0.2 ポイント減少している。

(10) 男女間における暴力を防止するための対策と被害者への支援(複数回答)

- ・「相談しやすい環境を整備する」が 71.8%と最も高く、次いで「家庭や学校等で、暴力を防止するための教育を行う」が 65.3%となっている。

